

島根半島・宍道湖中海ジオパークの魅力 ～生物多用性からのアプローチ～

生物多様性研究分科会 北村 清

1. はじめに

生物多様性研究分科会では、昨年度より『島根半島・宍道湖中海ジオパーク』をテーマとして活動を行っている。昨年度は、コロナ禍ということもあり、現地視察を行うことが出来なかったが、今年度は、「日御碕地区」、「加賀地区」で自然観察会を行い、ジオパークの魅力について学習した。本投稿では、両地区での活動内容とその魅力について報告する。

2. 佐藤技術士と歩く「日御碕」自然観察会（お宝探し）

ジオパーク企画の第一弾として、当研究分科会のメンバーでもありジオガイド養成講座講師の佐藤仁志技術士に依頼して日御碕自然観察会を開催した。

表-1 「日御碕」自然観察会の概要

日 時	令和 5 年 7 月 22 日（土） 10：30～13：00
参加者	佐藤仁志、吾郷秀雄、角谷篤志、川本朋幸、田中隆一、福井晴子、吉田薫、吉田進、大嶋辰也、北村清 以上 10 名
場 所	日御碕周辺
内 容	10:30～12:00 日御碕灯台周辺の自然観察会 12:00～13:00 意見交換会

当日は猛暑のなか、生物多様性からの視点で日御碕灯台周辺の植生について説明をして頂いた。

島根半島の注目すべきことは、日本海側の生育北限、又は東限とする植物が多く見られることや、他地域では標高の高いところに生育する植物が、低標高の場所まで分布していることである。これは、平成 27 年に視察に行った隠岐ユネスコ世界ジオパークと共通する特徴である。観察会では、海岸沿いに生育するトベラ、マサキ、ハマヒサカキ、ハマビワや、通常は森林に生育する樹木（常緑広葉樹）のスダジイ、タブノキ、ヤブツバキ、シロダモを観察した。



写真-1 自然観察会のようす



図-1 日御碕に生育する植生

また、日御碕周辺では、林の多くがクロマツ林であるが、風が強くて岩盤が露出している痩せた土地であるにもかかわらず、なぜクロマツは生育できるのか。答えは、クロマツが菌根菌と共生しているからだ。クロマツの樹勢回復には、肥料を与えるよりも、菌根を形成する成熟したキノコ（コツブタケ、チチアワタケ、ヌメリイグチ、アマタケなど）を水に溶かしてクロマツの根に直接散布すると効果があり、出雲大社の「相生の松」等多くの庭園の松で効果が実証されている。



写真-2 日御碕灯台周辺のクロマツ林

3. ジオパークガイド養成講座「はじめの一步コース」フィールドワーク講師

島根半島・宍道湖中海ジオパーク推進協議会が主催するジオパークガイド養成講座「はじめの一步コース」が毎年開催されているが、これまでは主に地質による講座が多く植生については、ほとんど無かったことから、当研究分

表-2 令和5年度ジオガイド養成講座「はじめの一步コース」

	日時	会場(参加時の集合場所)	内容	講師
第1回	8月5日(土) 10:00~11:30	伊波野(いわの)コミュニティセンター 集会室 (出雲市斐川町富村748)	島根半島・宍道湖中海ジオパークとは?	島根大学学術研究院 環境システム科学系 入月 俊明 教授
第2回	8月5日(土) 12:30~14:00	同上	島根半島・宍道湖中海ジオパークの植物	島根県立三瓶自然館 サヒメル 井上 雅仁 学芸員
第3回	8月27日(日) 13:00~16:00	松江ビジターセンター マリンプラザしまね2F (松江市長根町加賀6120-14)	フィールドワーク (桂島)※	島根大学学術研究院 環境システム科学系 大平 寛人 准教授
第4回	9月9日(土) 13:00~16:00	日御碕ビジターセンター (出雲市大社町日御 1089-37)	フィールドワーク (日御碕)※	島根大学教育学部 辻本 彰 講師 島根県技術士会 大嶋 辰也 氏
第5回	9月16日(土) 10:00~11:30	松江市民活動センター (STICビル) 201.202号室 (松江市白楽本町43)	ジオパークの理念と保護保全	島根大学大学院教育学研究科 教育実践開発専攻 松本 一郎 教授
第6回	9月16日(土) 12:30~14:00	同上	国引き神話と文化サイト	島根大学総合博物館 会下 和宏 副館長

科会に講師依頼があった。「はじめの一步コース」は、全講座を受講すると、ひきつづき「認定ガイドコース」の受講が可能となり、試験に合格すると、認定ジオガイ

ドして活動できる。令和 5 年度の講座内容は表-2 のとおりであり当研究分科会の
大嶋辰也技術士が講師を務めた。

表-3 「はじめの一步コース」の概要

日 時	令和 5 年 9 月 9 日 (土) 13:00~16:00
参加者	大嶋辰也 (講師)、北村清 (講師補助) 一般受講者 約 30 名
場 所	日御碕周辺
内 容	13:00~16:00 日御碕灯台周辺の自然観察会  

大嶋技術士からは、7月22日に開催した「日御碕」自然観察会の内容の他に、eco-logy (生態学) と eco-nomy (経済) の関係が紹介された。両者ともに *oikos* オイコス [ギリシャ語で (家)] を起源とすることから、本来なら「eco-nomy」は「eco-logy」に含まれ、対立軸にはならない。最近は、このような考え方が議論されるようになっている。

日御碕の岩場は、砂丘のように、海に近いところから「シバ」-「チガヤ」-「ススキ」の植生分布がみられた。本来は砂の動き具合 (不安定性) に基づいてすみわけを行っているが、岩場でも同様の仕組みがあるかもしれない。このように、植物のちょっとした分布の違いの裏には、植物と環境との関係を示すヒントがあるかもしれない。そこには自然環境の要因、人との関わり具合など、様々な物語がある。

言葉の意味	
Eco	<i>oikos</i> オイコス [ギリシャ語で (家)] → eco-logy (生態学) → eco-nomy (経済)
景観	英 語: landscape ドイツ語: Landschaft →風景や景色を構成する諸要素 →地域環境
Geo	景観 + 時間スケール (物語)

図-2 Eco の意味



写真-3 岩場での説明状況

4. 「加賀地区」自然観察会

島根半島・宍道湖中海ジオパークの学びの場として松江ビジターセンターが島根町加賀地区に平成30年春よりオープンしている。今回は、ビジターセンターの視察及びジオガイドとの意見交換会、その周辺にある加賀の潜戸、桂島の自然観察会を予定していた。当日は、強風のため、潜戸遊覧船が欠航したので、一部内容を変更して小波海水浴場にある「海の楽校」に視察に行った。

表-4 「加賀地区」自然観察会の概要

日時	令和5年11月12日（日）10:30～15:00
参加者	渡部修、田中秀典、大嶋辰也、大嶋奥さん、福井晴子、西村亮圭、余村仁、角谷篤志、岸根真志、木佐幸佳、北村清 以上11名
場所	松江ビジターセンター、海の楽校（小波）、桂島
内容	10:30～11:30 松江ビジターセンター視察及び意見交換会 11:40～12:30 海の楽校視察 13:30～15:00 桂島自然観察会

4.1 松江ビジターセンター視察及び意見交換会

松江ビジターセンターは、交代で職員が常駐されている。当日は、加賀まるごと博物館代表の船本力氏が担当で、センター展示品の説明をして頂いた。世界地図をさかさま（南を上）にしてみると新たな発見があることなど面白いお話を聞くことができた。

その後、センター内でジオガイドの召古裕士技術士に「生物多様性からジオパークへのアプローチ」をテーマに講話をして頂いた。その中で、技術者は本来、人類のために作られた基準や規制にとらわれることなく、これまで長い間に蓄積された生物多様性を第一に考えるべきであることなど興味深い講話を伺った。



写真-4 松江ビジターセンターでの状況

4.2 海の楽校（うみのがっこう）

召古氏が運営されている「海の楽校」は、小波海水浴場の船小屋を改造した施設で、小学生等の環境学習の場として活用されている。

小波海岸にはミクロな貝「微小貝」が多く集まっていて、その微小貝が砂浜を形

づくっている。この海岸は多古鼻の付根にあり袋型になっていて、中に入ってきた貝がたまりやすく、また河川の流入がほとんど無いことから砂浜のほぼ 100%が貝で出来ている。この貴重な「微小貝」や環境の授業を通じて、海洋ごみの現状や、削減に向けた対策など、子ども達にミクロな貝が訴えかけることについて考えるイベントを開催されている。



HP:海と日本 PROJECT in しまねより

当日は、実際にデジタルマイクロスコープにより微小貝を観察させてもらったが、想像以上に小さくきれいで、またさまざまな形があることに驚いた。



海の楽校入口



召古氏による講話



参加者集合写真

写真-5 海の楽校での状況

4.3 桂島の自然観察会

昼からは、地元ジオガイドの山田和彦氏に案内してもらい、桂島の観察会を行った。

ようこそ 桂島へ 2023. 11.12 技術士会のみなさま 山田和彦

- 1 ここは島根町加賀（かか）
 - ・大山隠岐国立公園（昭和 38 年 4 月 10 日隠岐、島根半島、三瓶山、蒜山地域編入）
 - ・島根半島・宍道湖中海ジオパーク（平成 29 年 12 月認定）
 - ・潜戸（国名勝 天然記念物 1927.06.14(昭和 2.06.14)指定）や桂島（ジオサイト）
…しかし、昭和の時代は海水浴客で島が少し沈んでいた！！）
- 2 歴史遺産…北前船の名残、小泉八雲の訪問
- 3 今日のテーマ…加賀浜地区の私たちが昔々から大切にまもってきた桂島
1500 万年前の海底火山、溶岩ドームの島～その手がかりを探しつつ、私たちが抱える環境問題や人口減少、さらにはこれからの観光のあるべき姿等について共に考えましょう！

当日、昼からは風がますます強くなってきたため、山田氏が当研究会のために計画して頂いたルートの一部を変更して、桂島の見どころを説明してもらった。今回は、波浪もかなり高くなってきて島を1周することができなかった。もう少し天気良ければ美しい島並みや海岸線が見れたと思う。



図-3 桂島の当日の観察予定地点



写真-6 桂島自然観察会での状況

5. おわりに

今年度は、島根半島・宍道湖中海ジオパークのうち、「日御碕地区」「加賀地区」の魅力について視察したが、まだまだ多くの魅力ある地区がある。来年度以降も当研究分科会では、引きつづき自然観察会を続けて行きたいと考えている。その地区の魅力を調べるのが目的であるが、一番の目的は、島根県技術士会員相互の親睦だと考えている。多くの会員の参加できる楽しい企画をしていきたいと思う。

最後になりますが、今回快く案内して頂いた召古裕士氏、船本力氏、山田和彦氏に改めて謝辞を申し上げます。

追伸) 会員の方より加賀の潜戸遊覧船を楽しみにしていたのに欠航となり残念だというお話がありました。来年度は、もう少し早い時期に再度企画したいと思います。